

# トップアスリートの資産運用についての研究

## The Study of how Top Athletes deal with Asset Management

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科トップスポーツビジネスコース  
藤本洋平

研究指導教員： 平田 竹男 教授

### 1. 背景

日本政府が「日本再興戦略 2016」を 2016 年に閣議決定し、スポーツ産業の GDP を 5.5 兆円から 2025 年に 15.2 兆円を目指すと発表した。その中でスポーツ産業の一角を担うプロアスリート達の年俸は年々上昇している。スポーツ産業が世界一大きいアメリカではアスリートのアセットマネジメントにここ数年注目が置かれてきた。その理由として挙げられるのは 2009 年の Sports Illustrated に NBA 選手の 60%は引退 5 年以内に自己破産、78%の NFL 選手は引退 2 年以内に金銭的圧迫を受けているという背景がある。

小林(2013)や光岡(2014)はスポーツ選手のセカンドキャリアについて論じている。また相原(2014)は JOC を中心としてキャリア政策について論じているものの、日本国内で選手の資産運用に着目している研究は見当たらない。

### 2. 研究目的

トップアスリートのアセットマネジメント(資産運用)はスポーツ界の大きな問題と言えるだろう。限られた現役年数期間中に、サラリーマンの平均生涯賃金を超える額を稼ぐプロアスリートは一定数存在する。このような選手の場合、現在のサラリーマンの定年(2019 年現在 65 歳)を迎える時と比較すると 20 年から 30 年以上を残してセカンドキャリアを迎える場合が多い。現役時代の年収が引退後も続くという幻想や後先を考えない支出により資産が残っていない状態でセカンドキャリアが始まるというケースが存在する。これを踏まえ、アスリートのセカンドキャリア問題の一部は現役時代のアセットマネジメントによるものだと考える。現役アスリートへのアンケート調査、ステークホルダーへのインタビュー調査、日本とアメリカのトップアスリートのアセットマネジメン

トの成功例と失敗例をもとに現状を明らかにし、未来への提案をしていきたい。

### 3. 研究方法

#### 1) アンケート調査

[調査対象]

現役プロトップアスリート

[対象スポーツ選手]

i) プロ野球選手

ii) テニス日本代表経験選手

iii) ラグビートップリーグプロ契約選手

iv) B1 バスケ選手

v) J1 サッカー選手

#### 2) インタビュー調査

[調査方法] 半構造化インタビュー

i) スポーツマネジメント会社社長

ii) 税理士・公認会計士

iii) 元トップアスリート

#### 3) 文献調査及び WEB 調査

アメリカと日本のトップアスリートの資産運用の実態を明らかにするとともに、成功例と失敗例を探求する。

### 4. 結果

第三章では研究結果の①アンケート調査の結果  
②インタビュー調査 ③文献 WEB 調査の三部構成となっている。

①アンケート調査では総勢 5 種目 31 名のトップアスリートから回答を得た。回答結果では「資産運用する機会が今までなかった」と「知識がないとできない」という二つの項目が多かった。「資産運用をしている」と応えた選手は約半数で、その内 2/3 は「保険」で行なっているという結果がでた。

インタビュー調査ではアスリートに携わる関係者からアスリートの資産運用に対して行なっている

サポート内容やスポーツ界の資産運用問題の実態について調査した。

文献調査ではアメリカと日本の現役と元トップアスリートが行なっている資産運用の事例紹介をした。本論文で資産運用の成功の定義を「現役選手として報酬を受ける期間が限定的であることを踏まえ、自己資産の管理を通して中長期的な経済的安定を図ること。自分自身の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会の実現に向けて主体的に行動すること」としている。

## 5. 考察

アンケートの結果で明らかになったことは「知識が必要」また「機会がない」という回答が多かったという結果を受け、これから機会提供の場をいかにアスリートのために創っていくかが重要である。

インタビュー調査では日本のマネジメント事務所資産運用を行なっている事務所はないということ。選手はリーグが契約している税理士や公認会計士に金融知識のアドバイスを受けている。前述したアスリートが学ぶ機会をスポーツ界全体、つまりステークホルダーであるマネジメント事務所やリーグが一緒になって考えていく必要があると考える。またセカンドキャリアの準備という点では現役中に資産を貯蓄することで、突然の怪我や戦力外通告に備えることの重要性が言及されている。

文献調査とインタビュー調査の共通項はトップアスリートの周りにはステークホルダーが多く、自分の資産が狙われている意識を常に持つ必要があるということだ。多様な人と会うことで善人と悪人の区別ができるような目利きができるようになるか、信頼できる第三者や事務所に任せることだ。その場合でも自分の資産がどのように運用されているかは常に把握しておくことは絶対に大切である。

## 6. 結論

総じて言えば、トップアスリートへの資産運用という面での環境整備は世界レベルでもまだ整っていない。これはアスリートのセカンドキャリアの問題に直結することから、これから議論がもっと

されるべき分野だと考える。

本論では資産運用に着目して研究を進めたが、アスリートの仕事はあくまで自身のスポーツで成果を出すことである。その上で自身のライフキャリアを考え、周りの助けも借りながら競技に集中できる環境を創っていく必要がある。そして引退後は支えてもらった恩返しとしてアスリートが様々な形で社会に還元していくというシステムができればスポーツは益々人々の生活に浸透していくに違いない。